個人11

受付	令和 6 年 11 月 25 日 午前・(午後) 4 時 11 分

一般質問（代表・(個人)）通告書

2024（R6）年　11 月　25 日

尾張旭市議会議長　殿

氏　名　川村つよし

尾張旭市議会会議規則第５０条第１項の規定により12月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1　質問事項　　3　件

2　質問方法

	１回目　一括質問、一括答弁 再質問以降　質問事項（大項目）ごとに一問一答
○	１回目から　質問事項（大項目）ごとに一問一答

↑選択する方法に○を付す。

尾張旭市議会 受付 6.11.25 第一号

別紙　　氏　名　川村　つよし

質　問　事　項 No.　1	ディスポーザーを使うと生ごみの減量ができますか
要 旨	（1）市のごみ減量施策の現状について 家庭からのごみ減量を進めることを、今期の私のテーマの一つにしていますが、市の取組の現状について、まず再確認しておきます。 （2）ディスポーザーの使用について ごみ減量について、新たな取組がないものかと考える中で、他市の事例で、生ごみを下水へ投入するディスポーザーの使用の可能性について質問します。 ア　全国的な導入状況について イ　当市でディスポーザーの取付けを可能とするには、どのような条件になるか

※　申し合わせ事項に留意する。

別紙　　氏　名　川村　つよし

質　問　事　項 No.　２－１	公共施設の断熱対策について
要 旨	地球温暖化対策の取組として、公共施設の断熱対策に力を入れることで、温室効果ガスの排出を抑制できると考えられる。 将来的に、小学校の体育館にも空調設備が設置されることになると思われるが、普通教室へのエアコン設置後、どのような状況が起きているか？ （１）児童生徒から出される意見は 温度むらがあり、吹き出し口に近いところでは寒いぐらい、窓に近いところでは温度が下がらず暑いという状況はないのか。 （２）小中学校の教室の断熱対策の必要性について 平成23年３月議会の質問「小中学校の普通教室の冷房について」では、今後避けて通れなくなる課題とした上で、可能な限り電力消費を抑えるような方法を検討するよう求めていましたが、今になって思えば、断熱対策がその答えだと思います。 学校環境衛生基準は、2017年までは「10℃以上、30℃以下であることが望ましい」とされていたものが、2022年からようやく「18℃以上、28℃以下であることが望ましい」となっていますが、温度むらがあると、基準を守れないのではないか。 温室効果ガスの排出抑制と、学習環境の向上を両立させるために、小中学校の断熱対策が必要と考えるが、取り組む考えはないか。

※　申し合わせ事項に留意する。

別紙　　氏　名　川村　つよし

質　問　事　項 No.　２－２	公共施設の断熱対策について
要 旨	（３）公共施設の断熱対策・省エネ対策について 建物の長寿命化を行う際に、断熱も優先的に検討すべきではないかと考える。 その前提に立ち、各公共施設の断熱性能を計測しておく必要があるのではないか。それにより、どのような改修を行うと効果的であるのか、検討材料になると思われる。 ア　各公共施設の状況について 保健福祉センターには、クールチューブや外付けブラインドなど、当初の設計段階で取り入れられている設備があるが、他の公共施設ではどのような状態か。 イ　公共施設断熱診断の取組について 現状の性能を評価した上で、どのような対策を講じることができるのか検討しておいてはどうか。

※　申し合わせ事項に留意する。

別紙　　氏　名　川村　つよし

質　問　事　項 No.　３－１	住宅の断熱改修にも補助を
要 旨	今回の質問は「『断熱』が日本を救う 健康、経済、省エネの切り札」（集英社新書） 高橋真樹(たかはし まさき)著　から多くのヒントを得ました。 日本を救う、とは大袈裟な印象もありますが、ドイツでは国策として断熱に取り組んでおり、エネルギー安全保障、貿易収支の問題、住宅の寿命が短いことから来る廃棄物の問題など、国策で考えている他国の賢明さを思うと、「日本を救う」という話は、大袈裟でもないと思います。 質問の前項目では、公共施設について伺いましたが、居住用の断熱対策をどう進めるかが、大項目３です。 地方自治体としてすでに取組を進めている鳥取県で、断熱対策に着目したきっかけは、ヒートショックの対策からだったため、ここでも、まず、それを確認します。 （１）尾張旭市におけるヒートショックの認知状況 市の広報などでも毎年のように、ヒートショックについての注意喚起をされていますが、尾張旭市でのヒートショックの救急搬送などの数値を御紹介ください。 （２）今後の新築住宅における断熱基準について 国の計画を御紹介ください。

※　申し合わせ事項に留意する。

別紙　　氏　名　川村　つよし

質　問　事　項 No.　３－２	住宅の断熱改修にも補助を
要 旨	（３）住宅リフォーム助成制度で断熱対策推進を 2014年から毎年行われている、国土交通省と厚生労働省によるスマートウェルネス住宅等推進調査事業で、建築分野の研究者と医師とが共同で調査を行っている。この調査で、断熱改修後に起床時の最高血圧が平均3.5mmHg下がったという結果が出ています。 高血圧は、脳卒中や心筋梗塞など深刻な病気のリスクが高くなるため、厚労省の「健康日本２１（第二次）」では、40～80歳代の国民の最高血圧を平均４mmHg下げることを目標にしているが、これまでの血圧を下げる対策は、減塩、減量、適度な運動、禁煙、節酒などで、断熱による血圧低下の科学的根拠が示されるようになってきたのは、注目すべき点。 既存の住宅で断熱性を高めることは、住民の健康増進につながり、それによる医療費の削減に寄与する可能性がある。 このため、住宅リフォーム助成により既存住宅の断熱改修を促進していただきたいと考えます。 ア　住宅リフォーム助成による断熱改修促進について 取り組むよう求めます。 イ　施工事業者の育成について 断熱改修を行う施工事業者の技術力向上を行う必要があると思われるため、自主的な活動に対する支援策を検討することを求めます。 ウ　異業種交流のテーマにならないか 戸建ての場合は、持ち主の理解があれば断熱改修も行えるのではないかと考えるが、集合住宅の場合は、金融機関や不動産業、施工事業者などの信頼関係も重要だと思われる。 断熱改修の理解促進のために、断熱をテーマに取り組んではどうか

※　申し合わせ事項に留意する。